

料理と散策を楽しむ会

ロシア料理 渋谷ロゴスキーにてロシア料理—2012年6月30日(土)

今回は元気な国 BRIC's の一つロシアの料理を体験しようと若者の町渋谷の老舗ロゴスキーに元若者男女が繰り出しました。

日本最初のロシア料理店ロゴスキー(昔は2階今は東急プラザ9Fに移転)に集まったのは、花田(小出)久恵さん、近藤(遠藤)恵美子さん、太田(岡)知子さん、伊藤(福島)生子さん、千葉由一さん、中村幸紀さん、松田春樹さん、久野英策さん、加藤俊和さん、水野二十一さんと私・小川眞一の11名



前の散策の松濤美術館へは、現地に直行する人が多く集合場所の東急プラザ・ロビーで集まったのは伊藤生子さん、水野さん、小川の3人でした。間違えやすい渋谷駅の広場からの放射状の道をスタートし、若者の雑踏の中をブンカムラ通の坂を上り約20分程で松濤美術館に到着しました。すでに直行した3人(花田さん、中村さん、加藤さん)とは展示場にて合流しました。

美術館の建物は、白井晟一（しらいせいいち）という建築家の作品。渋谷区制施行 80 周年記念として「田淵俊夫展 いのちの煌めき」が展示中でした。観覧料は一般 300 円だが 60 歳以上は無料と全員嬉しい恩恵を得ました。田淵俊夫は、東京生まれの日本画家で東京藝術大学で学んだのち愛知県立芸術大学で長年教鞭をとりました。このため、濃尾平野とか長久手の風景が多く我々にはゆかりのある懐かしい風景画が展示されていました。東京に戻り平山郁夫に師事しています。画題は植物と風景でしたが、植物を描いた作品からは、可憐な姿の中に隠された生命のたくましさや生命の連鎖に対する畏敬の念を読み取ることができ、また、風景を描いた作品からは、悠久の時間に対する作家の素直な感動を見て取ることができました。別室展示室では、東日本大震災後に描いたという水墨画風大作品「煌 1」「煌 2」が壁一面に展示されておりたいへん感動的な美術展でした。



観覧後往路とは異なるコースでぶらぶらと渋谷東急プラザまで散策しました。近くの落ち着いた湧き水池のある鍋島・松涛公園を歩き、井の頭線神泉駅付近の古風な商店街を脇に見ながら、道玄坂近くの脇道を下り東急プラザへ 9F のロゴスキーへ向かいました。道玄坂で日ごろ見過ごされていますが、「梅干と日本刀」で知られる歴史学者樋口清之の道玄坂の由来を記した記念碑を写真に撮りました。ここには、もう一つ与謝野晶子の詠んだ歌碑がありました。「母遠うて瞳したしき西の山 相模か知らず雨雲かゝる」郷里の大阪堺から単身上京し渋谷道玄坂傍に下宿してその後与謝野鉄幹と結婚しました。明治 35 年に「明星」に収めた歌です。名古屋から上京した我々の境遇と通じるようです。

ロゴスキーで既に来ていた松田さんら 3 人と合流し全員集合。まずはビールで乾杯しましたが、やはり再度ウオッカでも乾杯をしました。（銘柄はズブロフカという 40 度のポーランド・ウオッカ）ウオッカは香草の香りが良く、口直しにはお勧めのアイス紅茶がとても好く口にありました。

コース料理は

前菜 （ソーセージ、魚の酢漬け、鮭肉、いくらなど）

ペリメニー（シベリア風水餃子）

田舎の家庭風ポルシチ
ラムチャップの串焼き（シシリク）
きのこ鶏肉のつぼ焼き（ガルショーチク）
ロシア風洋梨のババロア
ロシア紅茶



最初は強いと感じていたウオッカを2杯3杯と重ね、次々に出される珍しいロシア料理を食しながら歓談しいつのもにか2時間予定のコース料理を完食してしまいました。

食後、レストラン前での集合写真を撮った後で、渋谷東急プラザ前の雑踏の中で解散しました。2次会は、6人で偶々見つけた駅前会館裏の喫茶店に入りコーヒーを飲みながら談笑しました。次回は、うなぎ料理をとの声がありましたが、ふぐ料理の方が良いとの声もあり店と料理の選択は幹事に一任して時期は12月初旬に行うこととなりました。

（小川真一記）

